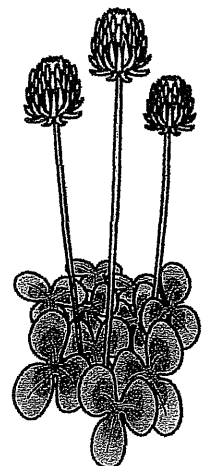


県退教協だより NO. 79

長崎県退職教職員等連絡協議会

長崎市筑後町二一 教育文化会館

☎〇九五―八二二―五一九五



憲法違反の戦争法案を 強行可決させた 自・公・次などへ鉄槌を!

2016参院選で、必ず、与党を少数に!!

2015年9月17日、参院特別委員会において鴻池委員長は採決を強行しました。当初は、「参議院は衆議院のコピーではない、良識の府としての議論をする」などと言いながらの強行採決でした。



なたにや正義参議院議員

議事録には「委員長（鴻池祥肇君）……（発言する者多く、議場騒然、聴取不能）」と記され、委員長退席、午後4時36分」としか記載されていない。（水岡俊一日政連参議院議員・兵庫選出のオンライン・メールによる。）
これで、本当に委員会可決といえるのでしょうか。

なたにや正義参議院議員（日政連）は横浜の地方公聴会（9

月16日午後2時）で「この地方公聴会の後に、もう一度特別委員会を開くことを職権で決めたことは大変遺憾で許せない、抗議を申し上げる」「限定的な集団的自衛権という言葉は、国際法上あり得ない言葉で、安倍政権が作った勝手な言葉だ」などと発言しました。広瀬清吾公述人も「今日、この後に強行採決というようなことがもし起こるとすれば、参議院の良識が問われる事態になる」と発言しましたが、議事録にも記載されませんでした。



神本みえ子参議院議員

9月18日、参議院本会議において、神本みえ子参議院議員（日政連）は、安倍総理に対する問責決議案に対して賛成の討論を行いました。「昨日の強行採決では、与党の特別委員会委員以外の多数の議員が鴻池委員長を取り囲み、野党議員は評決権を行使できなかった。委員長は評決権を奪うことはできず、今回の採決は無効である。又、今も多くの人たちが国会を包囲しながらアベ政治を許さないというプラカードを掲げている。国民が許さないアベ政治とは何か。それは、第1に『国民に真実を語らず嘘をついていること』、第2に『米国への追随』、第3に『安保法制の真実を報道しようとするメディアや自らの意見を声に出そうとする人たちに恫喝をかけること』だ。アベ政治の暴走によって自由と民主主義の基本が壊されようとしている。まさに、平和、立憲主義、民主主義の存立危機事態で安倍内閣の退陣を求めると。」

活動報告

国境の島 対馬から

退女教対馬支部 長瀬光代

ずば抜けて一番最後に県退女教の仲間に入れて頂いた対馬支部ですが、やがて十年になります。

最初は一人だけの会員でしたが、今では八人になり、毎月の定例会を楽しみに集まっています。

人数が少ないことは淋しいことではあります。集まり安、連絡が行き届く、全員の顔がよく見える等利点もありません。

メンバの八人は退職前からいろいろな活動に取り組んでいたり、素晴らしい趣味や特技の持ち主揃いで、活動に對するフットワークも良く、誰かの声掛けにはたいへん協力的で何事も盛り上がり楽しい時間を過ごすことが出ています。

会員の一人が、十数年前から取り組んで「地域の子どもを育てたい」という活動に参加させてもらっています。私たちの活動の一部になっています。

内容は実に様々ですが、軽スポーツ・子どもお茶会・絵画教室・餅つき大会・山歩き・詩吟・ハロウィン・親子み聞かせ・クリスマス会・絵本の読み聞かせ・詩吟・ハロウィン・親子み聞かせ

料理・書道教室等など。そしてたまには、本物の芸術家による芸術鑑賞会等も計画し、中味も大変濃いものです。

中でも十月に実施している「ハロウィン」は、すっかり町の人気者です。今年も、四百人近い親子が参加。普通はひっそりした町中に、かわいい仮装で華やいだ子どもたちの姿があり、大いに盛り上がりを見せました。

また意外と子どもたちに人気があるのが「お茶会」です。赤い毛せんの上の緊張気味に正座をして、美味しいお菓子をいただく。甘い抹茶に顔をしかめたり、子どもたちはこうしていろいろな体験をしながら大切なことや、古き良き日本の伝統などを学んでいくのだと思います。

また、お寺で対馬の良さを生かした体験活動をしています。挨拶の仕方「靴の脱ぎ方」「感謝の心」など、スタッフの言葉を子どもたちは素直に受け止め、実行している姿に「地域で子育てをする」とはこういうことなんだ、と実感している私たちです。

近くの山を散策したとき、日々の生活のなかでは気づかない鳥の声や風の音に耳を澄ませる経験もし、テレビもゲームもない中で、境内の草取りや絵馬堂の拭き掃除をする子どもたちの姿に、自分たちの子ども時代を思い出す私たちでした。

その昔、神社やお寺は子どももの遊び場、そこにはいつも近所のおばあちゃんや子どもたちを見守っていました。

お手玉やビー玉やぱっちゃん、そして生活の知恵もそこで覚えたのです。何にもなくても人と人がふれあえば、それが楽しい遊びになることも。昔私たちがそうであったように、今後は私たちが、子どもたちを地域で見守りながら育み、子どもたちを思いやりの心が育ってくれればいいなあ。と願っています。

定例会には、全員が参加できる日を選んで集まるようにしているのですが、本人の体調不良や家族の介護などで全員顔を合わせることも出来ないので出てきました。

また、会員を増やすことも考えているのですが、現在の八人の気心があまりに揃って、とても楽しいので、気むずかしい人の加入はお断り。しかし、対馬退女教加入十周年までには、何とか二桁の会員にしたいという期待を持っています。

ゆっくりボチボチ、皆さんの後をついて行きます。よろしくお祈りします。



辺野古基地建設反対支援を！

松田郁夫

危険な基地「米軍普天間飛行場」を世界一の支那が「辺野古」を訴えた。新選した現職の市長は「普天間飛行場」を訴えた。

の撤間果てにく党現な辺止はあはた有古出た非辺鎖場 新支る危 意去飛は今いたはま県職ど野、普る57の権移口。に野。撤去」を訴え、

Table with 3 columns: Year, Month, and Event/Issue. It lists various events from 1995 to 2016 related to the Okinawa Prefecture's stance on the Futenma air base relocation.

当問 対て押が暴 る 時題そす、印、行95 べきのにのる全を駐事年9月ではな

支基 援金新 あ1日並が務理は てし③た停②よ①承翁は起つ の移テ差移反で 左て

酔虎啾啾

その二十四

青木酔虎(英夫)

年のはじめに

◆27歳の啄木は、「悲しき玩具」の中に、こんな歌を残している。何となく、今年はいいことあるごとし。元日の朝、晴れて風なし。

新しき明日の来るを信ずといふ
自分の言葉に
嘘はなけれど

何となく明日はよき事あるごとく
思ふ心を
叱りて眠る。

◆啄木が27歳という若さで世を去った当時(1912年・明治45年)を歴史年表で見てみた。1904年日露戦争。1910年韓国併合。大逆事件。平塚雷鳥らの婦人解放運動。カツレツが家庭料理となる。
1911年(明治44年)、中国の辛亥革命。1912年清朝滅亡。中華民国誕生。関東大震災。明治天皇崩御。第五回オリンピックに、日本人初参加。日本は日露戦争に勝利して、富国強兵、軍国主義国家への道を歩んでいた。啄木は、貧困と

病と闘いながら、短い人生を終えた。

◆2016年、今年の元日も好天であつたが、「よいことあるごとし」とは、どうしても思えなかつた。年末から友人、知人やその家族が、病気で入院中、愚妻も連日病院通い。

◆規制緩和と非正規雇用の容認という政策で、格差社会は進展し、下流という語さえ生まれ、憲法第九条と日本海のおかげで70年間も平和を享受してきているこの国にも、戦争の臭いがしてきた。戦争法案が可決され、憲法第九条を葬り去ろうという動きも目立つ。
戦争も戦後の苦難も知らぬ若者の中にも、戦争を認める者が増えていくという。骨のあるテレビキャスターの何人が降板すると言う。更迭という情報もある。

◆こんな風潮の中で、79歳の男は、ただ野党の健闘を祈念したり、新聞に投稿したりすることぐらいしか出ない。
そして、天平三年の正月に「新しき年の始めの初春の今日零る雪のいや重け吉言(よごと)」と歌つた万葉の歌人のように祈るだけだ。

世相雑詠 2016

●働けど働けどなおその生活楽にならざり 非正規雇用

●風呂用心 寒中入浴恐ろしい ヒートショックで昇天するな

●外国にもばらまいて来る御大尽、一千兆円借金背負いて

●五右衛門も啞然とするか談合と 悪徳ビジネスのたねは尽きぬ国

●ばらまいて一網集票するつもり 三万円の一度の餌で

●ならぬものはならぬはずのこの国で ゆつくりしつかり原発再稼働

●若き日にデモで歩きしこの橋で 老いて反戦のピラ配るかな

●そこに住む人の哀しみ観光客は見ず 東洋一の港の夜景

●七十年泣いて耐えた基地の島 うちなんちゆが美(ちゆ)ら海守る

●国会という劇場の猿芝居 朝三暮四の消費税論議

近頃を思うままに

佐世保支部 畑中 収

私は、今年後期高齢者の仲間に入ります。これまでとは、違う気持ちです。この二・三年、年を取るたびに身体と、思考力の衰えが目立ち、物忘れが多くなり、何をすることも面倒になって来ました。そこで思いつきまま書きました。

先の大戦が終わって、七十年の年月が過ぎました。多くの人びとが命を失い傷つきました。決して忘れてはなりません。

私は、京城（朝鮮）生まれで、引き揚げ者です。母、姉、兄弟、七人で内地に帰ってきました。

父は、弟を「明らかに勝つ」と命名し、戦地に行きました。

弟は、引き上げ途中で栄養失調で死に、父は、戦後、一七年も過ぎて昭和三十七年戦死の公報が来しました。現在は、兄二人、私と三人になりました。

戦争ほど悲惨なものはありません。戦後は苦勞の連続でした。

昭和四十年新任で、五島有川の神之浦中学校に赴任しました。

新上五島町に十一年間お世話になり、その間、結婚して、息子四人生まれました。

息子達も、独立して孫も八人います。現在は、夫婦だけで暮らしています。「幸せ」です。

学校は、三十七年間務め平成十四年に退職しました。最後まで担任をしたことは光榮でした。

退職後は、即、退教協に加入し、生きがいづくりのための仲間づくりや、組織活動、情報活動、高問連運動等、多くの「仲間」と連携し、ともに支え合う社会の実現に向け「健康、平和、交流」を基本に楽しく活動しています。

もう一つの活動は、町内会の役員です。これも長年務めています。

役員会、(月一回)、年間の行事等企画が大変です。また、資源物の分別もしています。これには苦勞しています。出し方が乱雑で困っています。

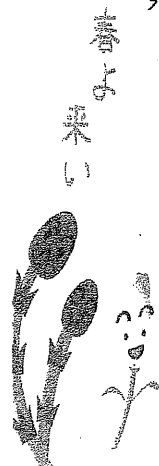
指導はしていますが、一向に直りません。課題としては、「役員の固定化」・「活動のマンネリ化」等があります。少しずつでも改善していかうと思っています。

楽しみは、家のまわりに畑があり、野菜をつくっています。耕耘機・草刈り機を使い、無農薬で、夏・冬野菜を作っています。

おいしい野菜が収穫出来ます。「本当においしいです。」近所のお年寄

りが喜んで持つて行きます。活動することによって、選挙の時には、大変役だっています。

今後も、いままで組合活動で得たことを糧として、精いっぱい生きて「いい人生だった」と思えるよう頑張ります。



編集後記
*「ネットアクセス」してみよう。
日退教ホームページへ

- ① パソコン・「日退教」とアクセス
- ② 「画面表示」・トップ画面
- ③ 各県退教協・連絡先リスト
- ④ 長崎県退教協のページが開く
- ⑤ 長崎県「退教だより」発行ページの表示
- ⑥ PDF: ダウンロード画面表示
- ⑦ 「退教だより」No.78号
..全ページ表示
- ⑧ プリンターで印刷可能

* 他県の便りも、読み取ることが出来、楽しめます。

画面表示 トップ

